



千本鳥居

**御神徳** 家内安全、五穀豊穣、商売繁盛、交通安全、海上安全、災難消滅  
開運招福、夫婦和合、良縁など

当社の御創建の年代は詳らかではないが、中世にこの地方を統治していた安東(藤)氏の創建と伝えられています。天和四年作成の古地図には「三王坊山」と記されていることから、それ以前は三王大神を祀り、難所であった周辺の海路、陸路の守護神であったようです。江戸時代になつてこの地に開墾の鍬が入れられてから稲荷大神が祀られ、稲荷信仰隆盛期と共に繁栄したものと考えられています。



大鳥居



参集殿



拝殿

☎高山稲荷神社 〒038-3305 つがる市牛瀨町鷺野沢147-2 ☎0173-56-2015

# 高山稲荷神社

たかやまいなりじんじや



津軽神楽「宝剣」

## 津軽神楽

弘前藩四代藩主津軽信政公の遺命により、正徳4年(1714)創作された津軽神楽は、300年以上の伝統を持つ神事芸能である。藩命により代々神職のみに伝習が許された格調の高い神楽で、青森県津軽地方の各神社の大祭などに奉納される。諏訪神社では、毎年7月27日の例大祭に奉納されている。  
青森市、東津軽郡では現在まで「神人舞かみいりまい」「弓立ゆたて」「千歳せんざい」「磯浪いそら」「宝剣ほうげん」の五番が伝承されている。昭和31年青森県無形民俗文化財に指定され、同51年には国の無形民俗文化財の選択を受けている。

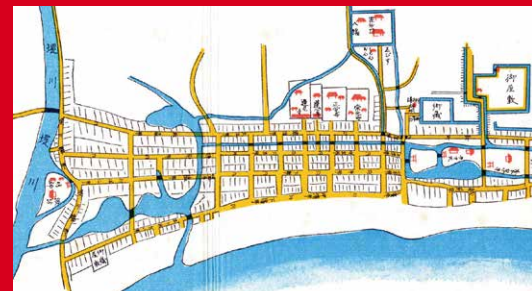
## 招魂堂由緒

護国の英霊をお祀りすることは、今に生きている我々の大事な務めである。  
明治25年、柿崎忠兵衛、伊東善五郎、柿崎千守(当時諏訪神社社掌)の三氏が発起人となり、合浦公園に総じハ造りの招魂堂を建立した。以後、盛大な招魂祭が終戦に至るまで続けられた。  
戦後、進駐軍より撤去命令が出され、諏訪神社拝殿として昭和24年移築した。同年7月には招魂祭が復活し、現在まで毎年斎行されている。  
青森市と東津軽郡の戊辰の役、日清日露から大東亜戦争の英霊及び八甲田山雪中行軍遭難者の尊霊を祀っている。



合浦公園にあった招魂堂

合浦公園にあった招魂堂



寛文(1661~1673江戸前期)の頃の青森町 堤川中洲に「諏訪明神」

# 諏訪神社

すわじんじや

当社は寛弘年中(1004~1012平安中期)藤原實方の勧請により、造道村浪打に鎮座したと伝えられます。江戸の初め青森開港の守護神として堤川中洲にうつされ、元禄年中までは青森五社の筆頭であった歴史もあり、現在まで広く市民の崇敬を集めています。平成16年にはご鎮座二千年祭を行いました。

江戸時代の伝説として、イルカが群れをなして堤川をのぼり参詣するという「イルカ諏訪まいり伝説」があります。



手水舎



イルカ諏訪まいり



拝殿

☎諏訪神社 〒030-0903 青森市栄町1丁目4-26 ☎017-741-4848